

今秋の神戸大会中止

代わって京都で追弔会

近畿宗教婦人連盟

近畿宗教婦人連盟(委員長=木辺美子真宗木辺派前裏方)は二十四日、事務局を置く京都市下京区の大谷婦人会館で今年初めての役員会を開いた。

同連盟は昭和二十五年、初代委員長に就いた大谷智子東本願事前裏方の呼びかけで発足した。畿内の仏教、神道、教派神道に属する女性らが参加。一昨年秋には滋賀県宗教婦人連盟(石倉しげ委員長=時宗最明寺)の事務局で一千人が集う大会を開くなど超宗派で活動が続いている。

約三十人が集まった役員会では当初、今秋に兵庫県が担当して二年ぶりに神戸市内で開催する計画だった大会を、兵庫県南部地震のために中止すると決定。代わって九月二十六日に大谷婦人会館で震災犠牲者の追弔会を営むほか、大谷智子初代委員長の七回忌、大谷光暢東本願寺法主の三回忌、三宅恒子同連盟前委員長(金光教泉尾教会)の一年祭も併せて執り行なうことにした。

さらに、一月いっぱいをメドに震災地への義援金を募り(受付先=三和銀行五条出張所、口座番号3544126)、会費の積立金を加えて被災地へ送付。台所用品や「一針ずつ思いを込めて縫い上げた」(石倉委員長)雑巾など救援物資も各自で集めて、数千人の会員を抱える兵庫宗教婦人連盟(上田敏子委員長=本願寺派妙善寺)に寄贈する。

このほか、役員会では同連盟に加盟している各寺の被害状況などで情報を交換。大谷婦人会長の太谷綾乃同連盟副委員長が現地へ電話するなどして、最後に犠牲者へ黙祷を捧げた。

木辺委員長は「ただ、モノを差し上げるだけでなく、宗教婦人らしく心の伝わる支援内容にしたい」と語っている。

地震犠牲者に黙祷を捧げる近畿宗教婦人連盟の役員ら【写真は省略】